

平成 23 年度第 2 回千葉県文化財保護審議会の概要

1. 日時

平成 23 年 9 月 12 日（月）13：30～16：00

2. 場所

県庁中庁舎 9 階企画管理部会議室

3. 出席者

【審議会委員】濱島会長、岡本副会長、吉村委員、武笠委員、小笠原委員、井原委員、吉良委員、松崎委員、入江委員、杉山委員、赤坂委員、黒須委員、二上委員、葛西委員

【教育庁】渡邊教育振興部長、安藤文化財課長、松岡副課長、永沼学芸振興室長、太田文化財保護室長

4. 議事報告

(1) 平成 23 年度指定文化財保存状況調査について

・文化財調査報告書：南房総の地震隆起段丘

(2) 平成 23 年度調査対象文化財について（以下、非公開）

(3) 千葉県文化財保護審議会公開要領の制定及び千葉県文化財保護審議会公開実施要綱の廃止について

(4) その他

5. 委員の意見等

議事報告(1) 平成 23 年度指定文化財保存状況調査について

【南房総の地震隆起段丘】

- ・当地は、現在ある指定外地も含め、海岸部から鉾切洞窟までの間に、大正ベンチから沼Ⅰ面に至る一連の海岸段丘が確認できるという点で、歩いて観察するには非常にいいルートとなっている。ただ、その間には一部樹林や街並み等があって、一望できない、全体像がつかみにくいといったマイナス要素もある。そのため、当地だけでなく、白浜など、段丘面が眺望できるような地点も今後の指定対象として検討してはどうか。
- ・このたびの東日本大震災もあって、昨今、地震地形が非常に注目されている。1923 年の関東大震災のときに隆起した大正ベンチなども、今後は検討の対象に加えてもいいのではないか。
- ・1 点から一望できるというのも、たいへんわかりやすいし、大切なことだと思う。一方で、歩いて迎れるというようなルートも必要だと思う。両方あっていいのだろう。
- ・沼のサンゴも布良や白浜の鍾乳洞も、本来の指定の趣旨はことなるが、隆起についての説明素材として活用することはできる。いくつかの指定物件があって、それを素材としてトータルで読み取っていくことは、大切なことだと思う。
- ・関心が高いときに、元禄地震や津波なども含め、地震地形について PR できる案内書（報告書）なども作成できればなおよいだろう。

- 地形・景観の問題なので、全体像が把握できるビューポイントが必要だということは理解できる。ただ、そこからの眺望を保存するというのはたいへん難しい問題だ。
- 地形や景観自体の保存が保障されないと、眺望点は意味を失うというのは、確かにそのとおりだが、やはり地域住民や地権者に知ってもらい、理解してもらいということが何よりも大切なことだと思う。そういうことを積極的にやっていただきたい。
- 鉾切神社境内地にとどまらず、海南鉾切神社の境内地も指定範囲の考慮に加えたらどうか。そうすると、連続性が出てくるように思う。
- 文化財そのものは、純度が高い、交雑物のないものというふうに捉えがちだが、そこに異なった要素が入り込んでいたとしても、いいのではないか。それが時代の堆積であり、現状である。交雑していることを肯定的に捉える、そういう見方もあっていいと思う。
- なお、当所は近年の指定ということもあって、まだ案内板（解説板）が設置されていないので、図面等を効果的に用いた、わかりやすいものを配するようお願いしたい。